

Business Report

[第85期 中間報告書]

2013.4.1-9.30

P.01-04 トップインタビュー

問題解決型のサービスで、お客様により大きな満足感を。
サービス内容の充実により、着実な成長を目指す。

P.05-06 デフィの生花事業、料理事業を公益社などグループ会社に統合
一日一葬儀貸切りの会館を新設オープン

P.07-08 財務諸表

P.09-10 トピックス・会社概要

すべてはホスピタリティから。



燦ホールディングス株式会社



問題解決型のサービスで、お客様により大きな満足感を。
サービス内容の充実により、着実な成長を目指す。

代表取締役社長 古内 耕太郎

高齢化社会に求められる 「問題解決型のサービス」

最近しばしば「終活(人生の終わりに向けての準備活動)」という言葉が耳にします。高齢化社会が進むにつれ、人が人生の最期を迎えるにあたって行なうべきこと、すなわち生前に自身の葬儀や墓の準備をし、財産の相続について計画を立て、身辺整理しておく活動のことで、これからの日本において「高齢者層の生活支援」が一つの大きなテーマになりつつあることをよく象徴しています。

常日頃、高齢者層を対象にサービスを提供している私たちは、そうした流れを肌で実感する機会が多々あります。たとえば、高齢者夫婦のどちらかが亡くなられたとき、かつてなら残された方は子ども世帯と同居することで身の回りの世話をしてもらったり、いろいろな問題を解決し、支えてもらったりすることができました。ご家族がいない場合でも兄弟や親族、ご近所さんなどが支援してきました。ところが人間関係の希薄化が進む今では、そのまま独居を続けるという人が非常に多くいらっしゃいます。そうなると、葬儀の手配はもちろんのこと保険の切り替えや自動車の名義変更などの事務的な手続きや、電球の付け替えから庭木の剪定といったことまで、何もかも一人でやらなければならなくなります。いずれも高齢者にとっては困難なことで、どうしたらよいかわからないというご相談を私たちが葬儀や供養の場で受けることが多くなっています。

こうした社会背景を考えたとき、葬儀という接点でお客様と関係を持っている私たちに対して、葬儀や供養のステージ以外にもサービスの軸を広げ、かつての家族や親族、地域に代わって高齢者の生活上の悩みを解決していくことで遺族

の心のケアや生活の支援をしていくことが、今後ますます求められていくように思います。

より満足度の高いサービス提供のため、 マネジメント体制を変更

2013年10月1日、当社のグループ会社であったデフィの料理事業をエクセル・サポート・サービス(旧社名:エクセル・スタッフ・サービス)に吸収分割するとともに、デフィ(生花事業)を公益社に吸収合併しました。

これまでの当社グループの体制は今から約10年前の経営計画に基づいて築いてきました。持株会社化した2004年には、葬儀社である「公益社」を支える機能をもった「機能子会社」として関西自動車、デフィ、エクセル・スタッフ・サービス、エクセル・ロジ、ユーアイがあり、それぞれが公益社だけでなく外部の葬儀社や冠婚葬祭互助会にも積極的にサービスを提供することによって、収益を拡大していくという成長モデルを描いていました。ところが、社会環境の変動もあって、現実には外部売上が想定より伸びませんでした。

そこで2008年以降、公益社を主体に機能子会社の事業を活かしていくという方針のもと、グループ会社のマネジメント体制を段階的に変更しています。各事業の特性を見極め、別会社で運営しているよりも公益社と一体的に運営したほうが効率的な事業を吸収合併する一方で、外部にあるほうが適切に機能する事業は、独立性をもった運営が効果的であると判断し、自社グループにおけるサービスの向上と業務効率化を図ってきたのです。

このたびの吸収分割においては、料理事業は葬儀の施行

サービスとは異なるサービスなので、最重要項目である品質管理等のリスク管理やサービスの向上のためには独立して事業を行なっていくほうが適切だと判断し、10月1日からエクセル・サポート・サービスの中で運営することとしました。

一方、祭壇や供花は、葬儀の内容に直結したものです。生花はここ5～10年の間に個別ニーズへの対応が求められており、葬儀においても重要な位置を占めていることから、デフィ（生花事業）は吸収合併して公益社との一体化運営を選択しました。これによって従来は「葬儀の仕事は公益社」「花の仕事はデフィ」とする縦割り業務の壁が取り払われ、一貫したスムーズなサービスが実現することとなりました。

祭壇を設置する過程を見ていただいたり、設置後に喪主様やご遺族へ準備が整ったことをお伝えする際に、葬祭ディレクターとともに花のスペシャリストである生花スタッフが同席し、「白を基調に、遺影の周辺には故人がお好きだったフリージアを飾らせていただきました」といった、サービスに込めた思いをお伝えしたりすることは、お客様にとって携わる者に対する安心感とサービスへのより深い満足感、納得感を生み出すこととなるでしょう。また、これまで裏方ともいべき祭壇や供花を担当してきたスタッフにとっても、お客様の前に出る機会を得ることで、これまで以上にお一人おひとりの顔を意識したホスピタリティ（おもてなしの心）を持つことができるという相乗効果もあります。

さらには、葬儀後の花の撤収もスタッフ全員で臨機応変に行なうことができるなど、組織が分かれていたことによって生じていた運送コストや人的コストの無駄やムラを削減し、グループとしての効率化を図ることも可能となるなど、このたびのマネジメント体制の変更によって、さらに質の高いサービス

を効果的かつ効率的に提供する土台が整ったと言えます。

葬儀前・葬儀後の支援を充実

今後は、ご遺族の心のケアと生活支援という分野で徐々にサービスの幅を広げていくとともに、葬儀前の支援を充実させていきたいと考えています。会員様をはじめとする高齢者層に対しても問題解決型のサービスを提供していく、ということです。これまでも地域の高齢者層に密着した講座の開催や個別事前相談等を行なってきており、サービスの範囲もかなり多岐にわたっています。

そのなかで、昨年度、特に注力したものの一つが「相続支援サービス」でした。高齢者の悩みを丁寧にヒアリングし、親身になって問題解決に取り組んでいただける行政書士や司法書士と提携し、当社の目指すところを理解いただいたうえでお客様に紹介するというサービスを始めたところ、かなりの利用率がありました。

今秋からは、保険の販売事業を本格的にスタートしています。家族の葬儀を経験すると、葬儀やその後の供養にどのぐらい費用を要したのかがわかります。特に突然のお別れを経験したご家族は心理的ショックに加えて費用面等実務の部分で悩まれていることが多く、ご自身もいざという時のために準備が必要だという意識が高まることから、よく相談を受けており、その解決策として生まれたサービスです。

保険なら貯蓄と異なり、契約時に受取人を指定できます。そこで受取人に長男や長女を指定し、生前に「この保険をかけているから、いざというときにあなたが請求すればお葬式代はまかなえるから」と伝えておけば、いざというときに、少なく

とも1週間程で保険金等を受け取ることができ、支払いを済ませることができます。しかし、これが銀行口座だった場合、名義人が亡くなると口座がいったん凍結されてしまいます。口座が回復するまでには相続人全員の署名と捺印が必要だったり、戸籍謄本や印鑑証明が必要となったりと1、2カ月ではお金が引き出せないことがあるのです。また貯金なら急に大金を用意するのは大変ですが、保険であれば、契約をしたときから決まった金額が保証されるので安心です。このようにお客様が抱える問題を解決するサービスを積極的にご案内していきたいと考えています。

この10月には大阪府箕面市に「終活広場」もオープンし、スタッフが葬儀だけでなく高齢者層が気になる様々な項目についての相談窓口を設けました。今後、高齢者層の生活を長年見つけてきた当社ならではの豊富な事例・経験を活かし、様々な相談サービスを強化していきます。

中長期的な視点に立ち、安定した着実な成長を目指す

当社の経営における基本の考え方は“ゴーイングコンサーン(継続するという企業の社会的使命・責任)”。つまり、短期的な収益を狙うのではなく、企業が将来にわたって無期限に事業を継続することを前提に経営を行なっています。「会社の寿命30年説」があるように、事業を継続的に安定して運営するのは大変困難なことですが、毎年、より質の高いサービスを提供し続けることで着実に利益を確保し、株主の皆様には安定的に配当で還元していくことで貢献していける企業でありたいと考えています。

株主様の目には、ともすれば非常にゆったりとした経営スタイルのように映るかもしれませんが、近視眼的にならずに中長期的な視点で世の中の環境の変化をしっかりと捉え、企業が安定的に成長していくために何をすべきかを見据えた「中期経営計画」の成果を同業他社と比較した場合、3年、5年、10年後と、時を経るとともに明確な違いとなって表れると確信しています。

コンプライアンスを実践し、本来の葬儀の役割、機能をしっかりと果たしながらも、時代のニーズにあった葬儀を常に革新し続ける、業界のリーダーとしての当社の特性、そして志を、株主の皆様には正しい目で評価・理解していただき、今後ともご支援賜りたく存じます。



デフィの生花事業、料理事業を 公益社などグループ会社に統合

～基盤整備の完遂—グループ会社のマネジメント体制の見直し～

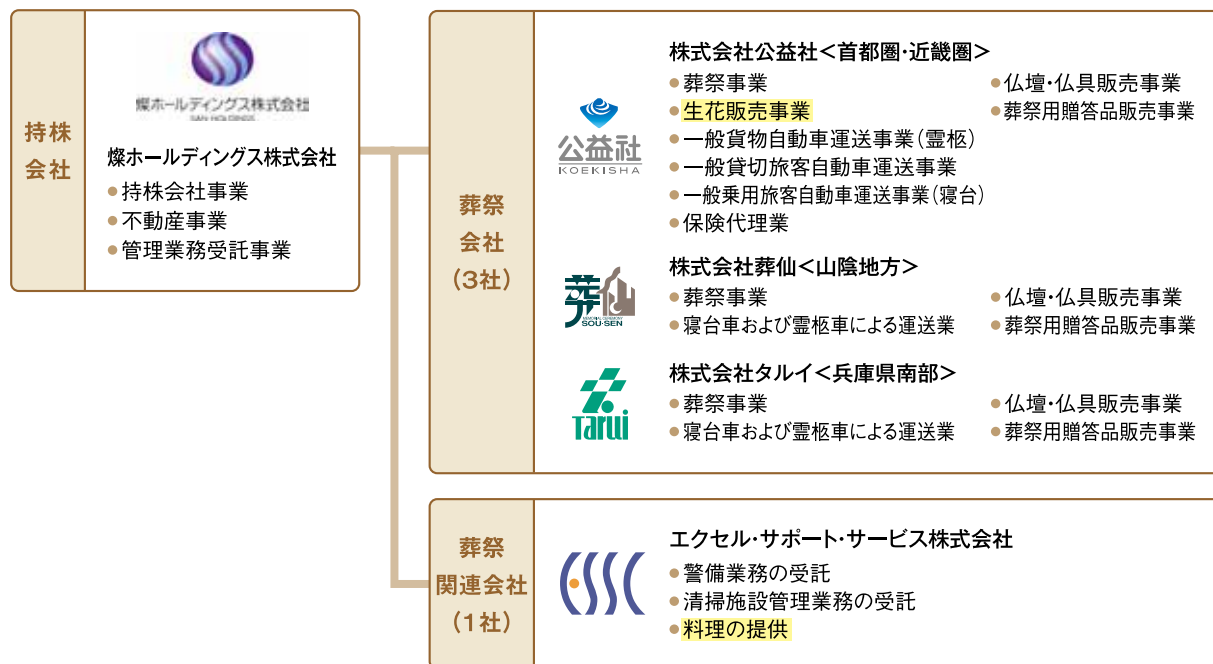
これまで2008年以降、当社グループは、機能子会社であるエクセル・ロジ(ロジスティクス)、関西自動車(バス・霊柩運送)、ユーアイ(仏壇・仏具販売)を公益社に吸収合併することにより、サービスの向上と業務効率化を進めてきました。

そして、このたび平成25年10月1日付で、デフィの料理事業をエクセル・スタッフ・サービスに吸収分割したのち、エクセル・

サポート・サービスに商号変更。残る生花事業のデフィを公益社に吸収合併しました。

生花部門は公益社と一体となって商品力の一層の向上と業務の効率化を目指し、料理部門は、エクセル・サポート・サービスの中で、引き続き厳正な衛生管理の下に、おいしさとサービスの向上を追求してまいります。

グループ事業概況(体制見直し後)

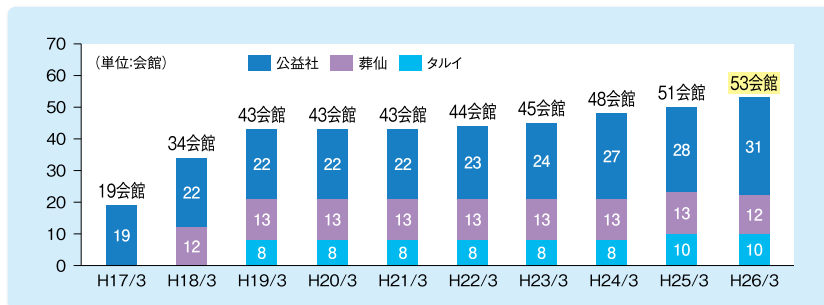


一日一葬儀貸切りの会館を新設オープン ～営業エリアの拡大～

当社グループでは、今期（平成26年3月期）、すでに3つの会館（東京都に2会館、大阪府に1会館）を新設オープンしました。

新中期経営計画（平成25年4月～平成28年3月）に「葬祭サービス業の営業エリアの拡大」を掲げており、東西の大都市圏を中心に新規会館を展開していきます。

当社グループの会館数推移



公益社 石橋会館
（大阪府池田市井口堂）
阪急宝塚線「石橋駅」徒歩9分

2013年4月15日 オープン



公益社 仙川会館
（東京都調布市仙川町）
京王線「仙川駅」徒歩2分

2013年5月27日 オープン



公益社 高円寺会館
（東京都杉並区高円寺北）
JR中央線・総武線「高円寺駅」徒歩2分

2013年7月22日 オープン



連結財務情報

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
〔資産の部〕		
流動資産	4,850	4,173
現金及び預金	3,560	2,865
営業未収入金	598	489
商品及び製品	139	137
繰延税金資産	374	414
その他	177	267
固定資産	21,595	21,286
有形固定資産	18,626	18,543
建物及び構築物	7,217	7,392
土地	10,786	10,779
その他	622	371
無形固定資産	795	676
投資その他の資産	2,173	2,066
資産合計 1	26,445	25,459

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
〔負債の部〕		
流動負債	3,318	3,784
営業未払金	701	553
短期借入金	30	10
1年内償還予定の社債	—	1,500
1年内返済予定の長期借入金	585	449
賞与引当金	660	474
その他	1,340	796
固定負債	2,923	1,252
社債	1,500	—
長期借入金	660	507
その他	762	745
負債合計	6,241	5,037
〔純資産の部〕		
株主資本	20,204	20,422
資本金	2,568	2,568
資本剰余金	5,488	5,488
利益剰余金	13,160	13,378
自己株式	△ 1,013	△ 1,013
純資産合計 2	20,204	20,422
負債純資産合計	26,445	25,459

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 〔平成24年4月1日～ 平成24年9月30日〕	当第2四半期連結累計期間 〔平成25年4月1日～ 平成25年9月30日〕
営業収益 3	8,400	8,353
営業費用	7,102	7,158
営業総利益	1,297	1,195
販売費及び一般管理費	819	765
営業利益 4	477	430
営業外収益	19	22
営業外費用	27	26
経常利益	469	426
特別利益	—	234
特別損失	0	21
税金等調整前四半期純利益	469	639
法人税、住民税及び事業税	279	302
法人税等調整額	△ 15	6
四半期純利益	205	330

連結キャッシュ・フロー計算書 **5**

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 〔平成24年4月1日～ 平成24年9月30日〕	当第2四半期連結累計期間 〔平成25年4月1日～ 平成25年9月30日〕
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 24	△ 167
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 62	△ 62
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 429	△ 464
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 517	△ 694
現金及び現金同等物の 期首残高	3,215	3,560
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,697	2,865

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

1 資産

流動資産は、現金及び預金が6億94百万円減少したことを主な要因として、6億76百万円減の41億73百万円となりました。有形固定資産は2億87百万円の資産取得にもかかわらず、減価償却の進行(3億11百万円)および資産の一部売却・除却によって、83百万円の減少となりました。無形固定資産は、のれんの償却1億3百万円により減少し、投資その他の資産は、繰延税金資産46百万円、不動産信託受益権28百万円等により減少。この結果、固定資産は3億9百万円減の212億86百万円となりました。

2 純資産

四半期純利益は3億30百万円、剰余金の配当は1億12百万円となり、その結果、純資産合計は2億18百万円増の204億22百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ3.8ポイント増の80.2%となりました。

3 営業収益

グループの中核である(株)公益社において葬儀件数は前年同期比3.5%増加したものの、葬儀単価が前年同期比4.9%低下しました。この結果、営業収益は前年同期比46百万円減収の83億53百万円となりました。

4 営業利益

販売費及び一般管理費が前年同期比6.6%減少となったものの、営業収益の減収および営業費用の増加をカバーしきれず、営業利益は、前年同期比47百万円減益の4億30百万円となり、営業利益率は0.5ポイント悪化して5.2%となりました。

5 キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益6億39百万円、減価償却費3億51百万円、売上債権の減少額1億8百万円、のれん償却額1億3百万円等により増加した一方、法人税等の支払額4億81百万円、有形固定資産売却益2億15百万円、賞与引当金の減少額1億85百万円、仕入債務の減少額1億48百万円等減少により、1億67百万円の資金減となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出3億47百万円等により減少した一方、有形固定資産の売却による収入2億69百万円等増加により、62百万円の資金減となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出2億89百万円、配当金の支払額1億12百万円等による減少により、4億64百万円の資金減となりました。

以上の結果、当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ6億94百万円減少し、28億65百万円となりました。

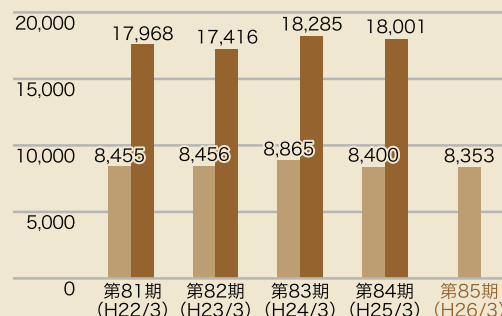
Consolidated Financial Highlights

連結業績の推移

第2四半期 期末

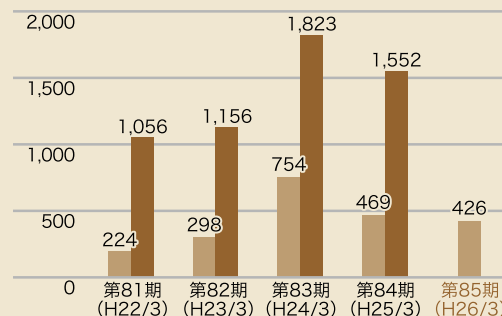
営業収益

(単位:百万円)



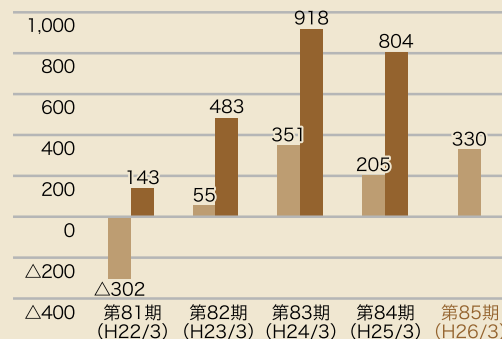
経常利益

(単位:百万円)



四半期(当期)純利益

(単位:百万円)



(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

知っておきたい豆知識 vol.6



これからの人生のためにエンディングノートを活用しよう。

エンディングノートを作るのは、死ぬ準備をするためではありません。自分にとって大切なものは何かを考え、これからの人生の指針を決めるためです。そのために「心」「人」「物」の「棚卸し」をするのが、エンディングノートなのです。

「心」の棚卸しというのは、家族への思いや、生と死に対する自分の価値観を見つめ直すことです。その中から、残すべき内容やどんな葬儀をしたいかといっ

た希望なども明らかになるでしょう。

「人」では、親族や友人との関係性を振り返ってみましょう。世話になった人、思い出深い人などを思い出し、いざという時に連絡したい人を思い浮かべます。

「物」では、資産や形見を書き出します。自分の死後、何をどう残したいか考えることができます。

「心」「人」「物」の棚卸しを進めていくうちに、自分の人生の様々な場面を思い出し

ます。そうして人生を振り返り、残りの人生をどう生きるのか計画を立てていくのです。

そして、エンディングノートを作る時は、家族にも相談することが大切です。たとえ自分が「こんな人生を生きたい」「こんな最期を迎えたい」と思っても、家族の理解がなければ叶いません。また、家族にメッセージや写真、手紙などの思い出を残しておくことは、自分の死後、家族の心のケアにもつながります。

【葬祭施設ネットワーク】2013(平成25)年10月31日現在

公益社 (首都圏) ご葬儀相談 センター 0120-347-556	公益社 用賀会館	東京都世田谷区瀬田3-6-8
	公益社 高円寺会館	東京都杉並区高円寺北2-2-5 New
	公益社 明大前会館	東京都杉並区和泉2-8-6
	公益社 田園調布会館	東京都世田谷区東玉川2-30-9
	公益社 雪谷会館	東京都大田区南雪谷2-1-7
	公益社 高輪会館	東京都港区高輪2-16-13 道住寺内
	公益社 仙川会館	東京都調布市仙川町3-1-3 New
公益社 社会館 たまプラーザ	横浜市長青区美しが丘2-21-4	

公益社 (近畿圏) ご葬儀相談 センター 0120-567-701	公益社 天神橋会館	大阪市北区天神橋4-6-39
	公益社 森小路会館	大阪市旭区今市2-22-7
	公益社 城東会館	大阪市城東区関目1-21-20
	公益社 西田辺会館	大阪市阿倍野区阪南町5-16-1
	公益社 玉出会館	大阪市西成区玉出西1-3-4
	公益社 豊中会館	豊中市南桜塚1-21-4
	公益社 石橋会館	池田市井口堂1-12-6 New
	公益社 吹田会館	吹田市内本町1-21-3
	公益社 千里会館	吹田市桃山台5-3-10
	公益社 高槻会館	高槻市野見町4-4
	公益社 守口会館	守口市大日町3-4-28
	公益社 枚方会館	枚方市山上之東町1-1
	公益社 正徳寺会館	枚方市長尾宮前2-2-1
	公益社 東大阪会館	東大阪市俊徳町1-6-28
	公益社 共善はびきの会館	羽曳野市恵我之荘3-4-25
公益社 堺会館	堺市堺区宿屋町西1丁-1-27	
公益社 なかもず会館	堺市北区中百舌鳥町2丁-322-1	
公益社 岸和田会館	岸和田市上野町東5-1	
公益社 学園前会館	奈良市学園大和町2-110-3	
公益社 富雄会館	奈良市富雄北1-7-7	

葬 仙
(山陰地方)
0120-444-200



タルイ
(兵庫県南部)
0120-365-365



公益社 住吉御影会館	神戸市東灘区住吉宮町7-3-8
公益社 西宮山手会館	西宮市城ヶ堀町1-40
公益社 宝塚会館	宝塚市小浜2-2-63
鳥取ホール	鳥取県鳥取市商栄町171
吉方ホール	鳥取県鳥取市吉方153-7
岩美ホール	鳥取県若美郡岩美町浦富645-9
米子葬祭会館	鳥取県米子市長砂町1075
安倍ホール	鳥取県米子市安倍51
福米ホール	鳥取県米子市新開6-3-15
境港ホール	鳥取県境港市上道町3588
余子ホール	鳥取県境港市竹内町1864-2
安来ホール	鳥取県安来市安来町977
松江葬祭会館	鳥取県松江市東津田町1738
比津ホール	鳥取県松江市比津町31
東出雲ホール	鳥取県八東郡東出雲町錦浜583-23
タルイ会館 出合	神戸市西区玉津町出合213-1
タルイ会館 舞子	神戸市垂水区舞子坂4-5-20
タルイ会館 大蔵谷	明石市大蔵町2-16
タルイ会館 新明	明石市新明町9-52
タルイ会館 林崎	明石市林崎町2-3-2
タルイ会館 大久保	明石市大久保町松陰1111
タルイ会館 長坂寺	明石市魚住町長坂寺715-1
タルイ会館 魚住	明石市魚住町中尾345-1
タルイ会館 土山	明石市二見町福里549-1
タルイ会館 東加古川	加古川市平岡町一色74

全53会館(公益社31、葬仙12、タルイ10)

会社概要

2013(平成25)年9月30日現在

商号	燦ホールディングス株式会社
本社所在地	大阪本社 〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル8階 TEL:06-6208-3331(代表)
	東京本社 〒107-0062 東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館14階 TEL:03-5770-3301(代表)
創業	1932(昭和7)年8月
資本金	25億6,815万円
事業内容	持株会社事業、不動産事業、管理業務受託事業
グループ会社	葬祭事業

株式会社公益社 <首都圏・近畿圏>
株式会社葬仙 <山陰地方>
株式会社タライ <兵庫県南部>

葬祭関連事業

株式会社デフィ*
生花・料理の提供
日本料理レストラン「なごみ庵きたはま」の運営

エクセル・スタッフ・サービス株式会社*
セキュリティ業務・清掃・施設管理の受託

※2013(平成25)年10月1日付けで、デフィの料理事業をエクセル・スタッフ・サービスに吸収分割し、エクセル・サポート・サービスに商号変更しました。また、デフィ(生花事業)を公益社に吸収合併しました。

役員

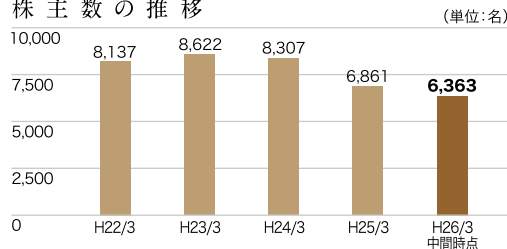
2013(平成25)年6月25日現在

取締役会長	小西幸治
取締役社長	西内耕太郎
取締役副社長	古島聰
取締役副社長	野呂裕一
取締役相談役	播島幹長
取締役相談役	播島康郎
取締役監査役	棚橋明彦
取締役監査役	三神野實彦
取締役監査役	森山哲
取締役監査役	秋山吾一
取締役監査役	榎江敏司
非常勤取締役	鈴木羽三
非常勤取締役	的井信子
非常勤取締役	大宮康義
非常勤取締役	島内正彦
非常勤取締役	池内弘幸
非常勤取締役	森健二
非常勤取締役	大西浩
非常勤取締役	山宮容
非常勤取締役	崎小大
非常勤取締役	林井伸

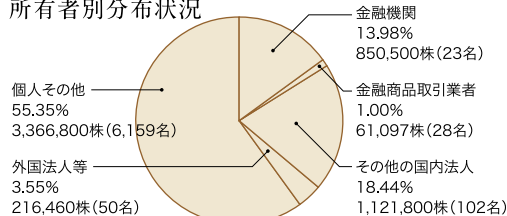
株式の状況

2013(平成25)年9月30日現在

発行可能株式総数 21,000,000株
発行済株式の総数 6,082,008株
株主数の推移



所有者別分布状況



※上記構成には当社所有の自己株式465,351株(7.65%)は含みません。

表紙について

緑のバラの花言葉は希望、願いです。
当社グループの事業において大切にしている
ことをこの花に表しています。



<http://www.san-hd.co.jp>

当社はホームページにおきましても最新のトピックスをはじめとして、
IR情報や会社情報など様々な情報をご案内しております。



燦ホールディングス株式会社
SAN HOLDINGS

株主メモ

証券コード / 9628
事業年度 / 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 / 毎年6月
基準日 / 定時株主総会 毎年3月31日
 / 期末配当金 毎年3月31日
 / 中間配当金 毎年9月30日(その他必要あるときは、あらかじめ公告して定めます。)

単元株式数 / 100株
株主名簿管理人および / 〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 / 〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先(※) / 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先(※) / ☎0120-782-031
(※)平成25年1月より郵便物送付先・電話照会先が上記のとおり変更となっております。
インターネットホームページURL / <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
公告方法 / 日本経済新聞に掲載します。

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)をご利用されなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

※この冊子についてのお問い合わせは、下記IR専用電話番号までお願いいたします。

お問い合わせ先 IR担当 / TEL.06-6226-0038 FAX.06-4707-8784 ご提供資料 / 事業報告書(中間事業報告書) アニュアルレビュー Eメールアドレス / ir@san-hd.co.jp